

## Become a valuable team

### 『定期総会・開催』



令和4年5月22日、サンピーチ岡山に於いて対面とwebのハイブリッド方式での定期総会を開催しました。当日サンピーチで参加いただいたのは、理事と各部の部員、各支部の役員の方です。

例年、総会では1年間の活動をお伝えし、次の1年の計画の説明、さらに保険集団指導そして来賓の皆様をお招きしての懇親会という流れで行いますが、まだまだ例年と同じという訳には行かず、少数での開催となりました事、誠に申し訳ありませんでした。しかし私達役員はこの定期総会開催をコロナから立ち上がった狼煙。さらにコロナ禍の経験が竹の節のように捉えて、次のステップへと進みたいと考えています。

今回は定期総会の前に国会議員や県議の方にご挨拶をいただきましたが、実はご案内の際「リモート参加でもビデオメッセージでも構いませんので、よろしくお願いします。」とお伝えしていました。それでも全員ご本人にご参加いただきました。これは私達の選挙に対する姿勢や、会長のきめ細やかな活動の積み重ねによるものと大きいですが、何よりも「一日も早くコロナ前に戻す」「コロナが分断した人との繋がりを急回復させる」先生方のそんな強いメッセージだったように感じられます。



政治家の方のご挨拶にもありましたが、今夏行われる参議院選挙では、私達は『小野田紀美候補』『自見はなこ候補』の女性お二人を応援しています。

政治の世界もそうですが、柔整の世界でも女性の進出はかなり遅れています。特に柔整はその出自、柔道家の集団というイメージからの脱皮も急務のように思います。そこで、今回の総会では司会に中山えり子先生、副議長に大橋晶子先生をお願いしたところ見事な会の進行ぶり、「こんなに出来るならもっと早くお願いすれば良かった」そんな気持ちになったのは私だけではないはず。

いはずです。

柔整の養成校では女性が増えていると聞きますが(公社)への入会者などには大きな変化が無いのが現状です。女性や若い会員が気軽に入れる環境作りも必要なかもしれません。それには皆様の声やご協力が絶対に必要ですので、よろしくお願いします。



それにしても『コロナの追いコン』はやくやりてー。

## 『岡山柔整杯』

マスク生活(コロナ禍)も早いもので、3年目を迎えます。この期間の長さの感覚は人それぞれだと思いますが、  
確実な事は6歳(小学校一年生)の子供にとっては人生の半分がコロナだとい  
う事です。

高齢者の皆さんにとってもこの期間は辛いものだったと思いますが、それ  
は子供達にも同様で彼らに与える影響は計り知れません。

本日の柔整杯に指導者としてご参加くださった県内の先生方は、コロナ  
禍でも「子供の為に」と様々な犠牲をはらいながらコンタクトスポーツで  
ある柔道に真剣に取り組んでこられた先生方です。この中に柔道整備師会



の会員が多くいる事は、私たちの大きな誇りであり、なによりも自慢です。



さて先日スポーツ庁の有識者会議において、公立中学での休日の運動  
部活動について「地域移行」を同庁へ  
提言したとの報道がありました。

中学の先生方の激務は繰り返し報道  
されているので、少しでも負担が軽く  
なるのであれば大賛成ですが、その皺  
寄せは地域でボランティア同様の活  
動をされている少年スポーツの指導者の皆様に集中するのは明らかで、そん  
な指導者の皆さんをお支え出来  
ないか?と思わずにはいただけませ  
ん。



柔整会には、柔道の指導者はも  
ちろん様々なスポーツの現場で  
活躍している会員も多く存在し、また、やっと再スタートが切れそう  
なマラソン大会にも多数の会員がケアスタッフとして参加していま  
す。

何をすれば社会の役に立てるのか?

私達にも子供達の成長を少しでもお助け出来る活動はあるのか?

そんなことを考えていると、写真を撮るのも忘れ(弁当はいただきま  
した。2個)、子供の汗とは対照的な変な汗が私の背  
中いっぱい広がっています。

